

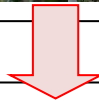
ミツバチの為の庭（ハニービーガーデン）の制作

フラワーファクトリ科 園芸デザイン部 2年 沖村みくり

池田市は、近代養蜂の発祥の地の一つであり、明治時代からすでに多くの人が、ミツバチの飼育に取り組んでいたということが、明治の文豪「岩野泡鳴」の著書『池田日記』や「ある詩人の養蜂日記」に記されている。養蜂を行いながら、ミツバチが利用する植物を使った小さな庭づくりに挑戦した。



これは、ミツバチが利用する植物の一例である。これらの植物を利用してミツバチの庭作りを行った。

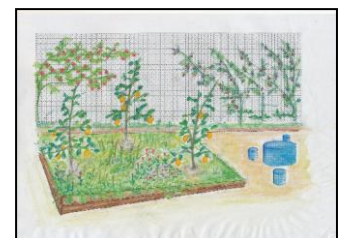


コンテナガーデンやミニガーデンの制作を行った。これらの植物で十分に面白い花壇が出来ることが分かった。

また、「ミツバチの為のガーデン」として、第28回緑の環境プラン大賞 ポケットガーデン部門（主催 公益財団法人都市緑化機構）に応募した。結果、「コミュニティ大賞」を受賞した。以下受賞内容である。

作品名 ミツバチを見ながらアフタヌーンティーを！～生きものに優しいポケット・ガーデン～

概要 ミツバチの蜜源となる植物を集めた、小さなガーデンづくり。このガーデンをミツバチの為の庭「ハニービーガーデン」と名付け、新しいタイプのビオガーデンとして普及に取り組む。



提出 スケッチ

まとめ

ミツバチが利用する蜜源・花粉源植物を利用したガーデンには、ミツバチを始めとしてハナバチ類や他のハチ類・ハナアブやハエ・コガネムシそしてチョウ類と多くの昆虫が訪花する。このガーデンは、多くの昆虫の生育を助けるとガーデンである。バタフライガーデン作りが盛んであるが、バタフライガーデン以上に多くの生き物が観察できる新しい形のビオガーデンとして、多くの家庭や企業等の小さなスペースに普及できれば、昆虫に優しい緑環境が充実する事が期待できる。